

第5回 J R 肥薩線検討会議 概要

■日 時 令和5年12月13日（水） 13：30～14：30

■場 所 熊本県防災センター 災害対策本部会議室

■概 要

○冒頭、国土交通省 岸谷技術審議官、熊本県 田嶋副知事、九州旅客鉄道株式会社 松下取締役常務執行役員 総合企画本部長から挨拶があり、配付資料に沿って説明の後、意見交換会が行われた。主な発言は以下のとおり

岸谷技術審議官

前回は、今年6月に第4回検討会議が開催され、熊本県が進めている調査・検討事業の中間報告がなされ、肥薩線沿線地域の将来の姿や、J R 肥薩線がどういう役割を担うか、創造的復興に向けた取り組み等が紹介された。

J R 九州からは、検討すべき前提条件や課題について議論を深めていく必要があると意見があった。

前回会議の経緯を踏まえ、本日は調査・検討事業の結果の取りまとめとして、肥薩線の復旧方針（案）が報告されることとなっている。会議前までに内容を確認したが、非常に充実した報告になっている。まだ案の段階ではあるが、ここまで取りまとめられた熊本県、関係の市町村に大いなる感謝を申し上げたい。

本日はこの復旧方針について議論いただくが、被災前の状態に単に戻すだけでなく、観光客や地域の方にとって、肥薩線を活用した街づくり、地域づくりがどうあるべきかという点まで、幅広い観点で議論をしていきたい。

今年の10月1日に国土交通省で地域公共交通活性化・再生法を改正した。その改正法に基づき鉄道事業再構築事業の大臣認定を受けた場合は、社会資本整備総合交付金という新たな支援のメニューを活用できるようになった。街づくりや地域振興と一体となったローカル線の再構築について、地域を応援するツールを充実させたので紹介させていただいた。

今日は関係者の皆様、忌憚のない活発なご議論をお願いして私からの挨拶としたい。よろしくお願いたします。

田嶋副知事

令和2年の豪雨災害から3年半の月日が経とうとしている。甚大な被害を受けた球磨川流域の復興については、道路・河川等の社会基盤の復旧と同時に、被災者の住まいの再建を最優先に、生業の再建や農林水産基盤の復旧、そして観光資源の復活といった経済活動を取り戻すための着実な歩みを進めてきた。国土交通省においては、被災当初からスピード感をもって計画的に道路・河川等の復旧工事を着実に進めていただいた。また、くま川鉄道の全線再開に向けても、多大な支援をいただいております。この場を借りて感謝申し上げます。

このような中、令和2年7月豪雨災害においては、肥薩線の復旧という大きな課題があり、皆様のお力添えを得ながら懸命に取り組んでいる。県としては肥薩線という鉄道がなくなってしまう球磨川流域の地域そのものの存亡に関わるという強い危機感を持ってこの問題に向き合っている。この思いは、蒲島知事も同様である。

本日は、昨年末にJR九州から示された6つの課題に対応するための調査・検討の成果として、「JR肥薩線復興方針（案）」がまとまったので報告する。併せて、先月24日に関係市町村と開催した第5回JR肥薩線再生協議会において、JR肥薩線の復旧に係る地元費用負担についても協議した。肥薩線沿線のみならず球磨川流域全ての市町村が、広域的かつ主体的に取り組むことを前提に、県が最大限の財政支援をすることで、関係12市町村と県が一枚岩となり、JR肥薩線の復旧と将来に向けた持続的な運営に尽力するという地元の決意が整った。被災前は、肥薩線が鉄道だからこそ持つポテンシャルを活かしきれていなかった反省を踏まえ、沿線地域の持続可能性や将来性を高める存在である肥薩線と共に、球磨川流域の復興を是非とも、一日でも早く成し遂げたいと考えている。

復旧に向け国の絶大なる支援のもと、どのように持続可能な肥薩線を実現していくのか、JR九州、県、関係市町村がしっかりと方向性を共有し、復旧方針を早期に具体化したいと思っている。よろしくお願いいたします。

松下取締役常務執行役員

この度、熊本県、沿線自治体が、JR肥薩線に対する議論を重ね、総力を挙げJR肥薩線復興方針（案）を取りまとめられたことに対し、感謝を申し上げたい。

本日の会議でも内容を伺い、さらにこの会議において議論をより良いものにしていきたいと考えている。どうぞよろしくお願いいたします。

○JR肥薩線復興方針（案）概要に沿って熊本県及び（株）野村総合研究所より説明

構成員 田嶋副知事

事務局から説明した復興方針（案）は、これまで肥薩線を利活用できていなかったことを踏まえ、JR九州が示している課題における、将来の地域像、それに対するJR肥薩線のあり方について、今後私たちが取り組むべき施策をまとめたものである。

施策を実施したとしても肥薩線単体の収支が黒字になるのはなかなか難しいと予想しているが、地域への波及効果を含め、地域が存続するための投資として関係者全員が取り組むことで地域に便益が還元される。その点を含めて是非検討していただきたい。

具体的な取り組みについては検討・深度化が必要ではあるが、今後も国の力もお借りしながら、JR九州・県・地元自治体の役割分担についてもしっかりと具体的に整理して参りたい。そして、絵に描いた餅にならないよう、方針及び施策を実行していくことが大前提と考える。肥薩線の復旧、そして運営についても責任を持って尽力するということで地元の決意が整っ

たので、これより説明したい。

事務局（熊本県）

先月24日に開催した再生協議会では、この復興方針に沿って、鉄道利用促進、観光振興、さらには未来に向けたまちづくりをセットで実施し、日本一の地方創生モデルを目指すということを県と地元の共通目標とした。

さらに、鉄道復旧に係る地元費用負担の方向性について、「上下分離方式」の導入を前提とした枠組みについても合意した。

このスキームについて、再生協議会で地元首長に説明したものと同じ資料により説明する。

○ J R 肥薩線の鉄道復旧に向けた費用負担に係る市町村負担軽減の方向性について熊本県より説明

構成員 岸谷技術審議官

通常の利用促進だけにとどまらず、鉄道で営業再開した後の費用負担についてもしっかりと議論されていて、県を中心とした地元の覚悟や意気込みが示された。鉄道の利用促進をするための様々な取り組みや収益を上げる取り組みもあるが、どうしてもローカル鉄道は維持管理や人手を要し、その分の人件費も要する。常に営業している状態で老朽化対策の方針や設備の買い換えは難しい。その時点で最新の日常メンテナンス設備や無線を使った列車制御など、一番整った技術開発要素を復旧の際に取り入れることで、復旧後のランニングコストを下げることが実施できると良い。国においても考えなければならないが、こういった観点もあると良い。

構成員 松下取締役常務執行役員

J R 肥薩線再生協議会において、J R 肥薩線の鉄道復旧に関する調査・検討事業により、地域の総意としてJ R 肥薩線復興方針案が取りまとめられたことについて、事業に参画、取りまとめに関わられた皆様に対し改めて感謝を申し上げたい。当社として重く承ったところ。復興方針案に対して、鉄道事業者として当社の考え、課題を述べさせていただきたい。

まず一点目として、まちづくりを含めた将来における地域の全体像あるいは地域全体の交通のあり方、そして鉄道の位置づけ、こうした定義づけをした上で具体的な利活用策が必要だということを申し上げてきた。本日お示しをいただいた復興方針（案）については、地域の目指す姿に「百年レイル肥薩線」と記載のとおり、鉄道の存在が地域の存続に不可欠なものだということで位置づけをした上で、地域の将来像を描いた内容であると受け止めた。

2点目として、具体的な利活用策において、将来の人口集積のための施策あるいは日常利用の増加に対する打ち手というよりも、観光に大きく軸足を置いた内容だという風に理解した。

3点目は、地域経済にはバス転換した場合と比較し、約119億円という大きな便益がも

たらされると想定される一方で、鉄道そのものの収支は大きく改善しないことが示された。

以上3点については鉄道事業者として肥薩線のあり方を考える上で重要なポイントであるが、示された復興方針（案）をしっかりと受け止めていきたいと考えている。

今後の検討すべき具体的な課題は、まずは「利活用策の深度化」についてだと思う。利活用策の深度化は、責任主体や継続性について関係者で十分に検討を進めていく必要があると考えている。

次に、「利活用策の着実な実行」により想定された効果を確実に発現させていく必要があると考える。これに対しては、関係者一同の努力が不可欠だと考えている。また、肥薩線が存続する限り継続して必要なものだとも考えている。

当社としては、厳しい経営環境の中、これまで民営化後30年以上にわたって鉄道による交通ネットワークを担うべく、あらゆる施策を必死に実施してきた。そうした中であっても、今後ますます人口減少など鉄道事業を取り巻く経営環境が厳しさを増していくことが想定される。コロナ禍で明らかになったが、観光需要も安定的に担保できるものでないと思う。熊本地震で被災した豊肥本線についても2020年に復旧したが、肥後大津～宮地間の利用の状況は被災前と比較して大きく減少した状況である。これまで鉄道事業を担ってきた者として、鉄道の復旧には多額の投資を必要とすることから、鉄道事業者としては鉄道の持続可能性、その観点が大変大事だということを改めて申し上げたい。

本復興方針案については、熊本県そして沿線地域の固い意志や覚悟として重く、またありがたく受け止めている。今後、鉄道の持続可能性を高めていくためには、先ほど述べた課題について、関係者でさらに議論を深めていくことが必要だと考えている。また、上下分離方式を実行するためには、事業運営のあり方など具体的な調整も必要になると考えている。県のお考えを詳細に伺い、協議をした上で当社の考えをしっかりと検討し、次回以降のこの場でお示しをしたい。

構成員 田嶋副知事

肥薩線は、単に沿線の地点から地点を結ぶだけでなく、人吉・球磨地域や球磨川流域を支えるシンボルであり希望である。その中で県としては、地域をしっかりと支えていく覚悟を持っている。財政的なことも含めて、私たちの覚悟がなければこの問題は解決しえないとの思いのもと、これまでの枠組みを超えた形で提案させていただいた。

7年半前の熊本地震の時に豊肥本線が非常に大きく被災し、JR九州からも相談を受け、まずは復旧に向けてやれることを全てやろうということで、線路の上の山の部分は県で、国においては道路の復旧や砂防の復旧と合わせた形で前向きに取り組んでいただき、JR豊肥本線を復旧するための基盤ができた。豊肥本線の役割は単なる地域の足だけでなく、九州全体の観光・産業を支える基盤となるものだという覚悟をもって私たちも検討した。九州の東海岸と西海岸の真ん中を豊肥本線がつないでいるというような立地にあり、豊肥本線を切ることで観光が分断してしまう。そのような中で、市町村との意見交換においても、豊肥本線については広域的な意味合いや役割が非常に大きいということで、地元には負担を求めず県が全額負担し、ただ、今後の利活用策については地元自治体が精一杯役割を果たすという条

件で役割分担、財政負担等をして見事復旧した。

先ほど松下常務から、豊肥本線の利用者がまだ回復していないと話もあったが、観光列車ななつ星が運行しているなど、観光列車の役割も非常に大きかったと思う。豊肥本線が運転再開したことで、世界的なホテルが立地するといった動きもある。やはり繋がってこそその役割も非常に大きいので、そういったことも踏まえ、是非JR九州にも頑張ってください、利用促進に繋げていきたいと考えている。

蒲島知事は自身の任期中に肥薩線の鉄道復旧について道筋をつけたいという思いで取り組んでいる。12月議会で今期での退任を表明し、4月15日までの任期を全うしたい、県政に残された課題の中で肥薩線の復旧・復興は大きいと発言されているため、私としては国、県、JR九州が同じ方向を向いて鉄道での再生に向けて、まずは思いを一つにする。そこに合意できればと思う。よろしくお願ひしたい。

構成員 吉永九州運輸局長

今回熊本県から示された、JR肥薩線の復興方針案については、肥薩線の復旧、創造的復興に向けた地域の皆様の思いが集結した、一段踏み込んだ内容と受け止めた。本復興方針案を取りまとめ、作成されました熊本県に改めて敬意を表す。内容的に見ても、観光の再成長を軸とした、地域の再生を目指す充実したしかるべき内容となった。あわせてJR肥薩線の鉄道復旧に向けた費用負担のあり方についても目を見張る内容となった。この方針案に込められた熊本県、沿線地域の思いをしっかりと受け止め、関係者間で丁寧にしっかりとさらに検討議論を深めていかなければならない。

九州運輸局としても創造的復興に向け、幹線交通、フィーダー交通を含めた持続可能な交通のあり方、観光の振興について引き続き鉄道局や観光庁ともよく連携の上、今後の検討・議論に参画したい。どうぞよろしくお願ひします。

構成員 森戸九州地方整備局

本日案が示されたJR肥薩線の復興方針（案）だが、非常に県の熱い思いが込められたものだと確認できた。九州地方整備局の活躍させていただけるフィールドは限られるが、すでに示されているとおり復旧時の事業間連携のような形での費用圧縮などがある。また説明のあった具体的施策29項目について、どこにどのようなご協力ができるのかは検討がまだまだ必要なところだが、先ほど申し上げたとおり私どもが協力できるフィールドがあれば、前向きに検討していく。引き続き連携を密にさせていただきながらご協力させていただきたい。

構成員 松下取締役常務執行役員

ありがとうございます。貴重なご意見をいただいた。しっかり受け止めたい。副知事から、肥薩線が不可欠だという思いをいただき、本復興方針案に示された地域の思いもしっかりと受け止めたいと思うし、知事の思いもご紹介いただきしっかりと受け止めたいと思っている。

今後私どもとしましても、持続可能性も含めた観点からしっかりと社内で議論・検討し、次回以降のこの場で考えを示したい。ここまで復旧方針（案）をまとめていただいたことに本当に感謝している。

構成員 田嶋副知事

国としての力強い支援を元にこの方針をここまで取りまとめることができた。まずは235億円の莫大な事業費の中で事業間連携により76億円まで負担を軽減していただいた。それが議論のスタートであり、大前提となっている。ご英断に感謝する。

J R九州の松下常務から「しっかり受け止める」との発言があった。新たな計画を絵に描いた餅にせず実現していくための覚悟と具体性が問われると思う。限られた時間の中ではあるがしっかり進め、J R九州も胸を張って株主に説明しうるようなものにしていきたい。今後、残された時間は少ないが、是非知恵と力を出し合って方向性を打ち出していきたいので、今後もお協力よろしくお願ひしたい。

構成員 岸谷技術審議官

ありがとうございました。有意義なあるいは力強いお言葉をいただき感謝申し上げます。

まずは熊本県から説明のあった復旧方針案だが、地域の皆様が一枚岩となった覚悟がたくさん盛り込まれていた。ここにいるメンバー誰もが高く評価している。一方、J R九州からは、利活用策の深度化、その着実な実行や上下分離のあり方について、中々簡単なものではなく、十分な協議などが必要だとの話があった。課題はまだ残っており、詳細かつ深く議論をしなければならないが、時間も限られる。このメンバーでこの場でとなると、また何ヶ月か経ってしまうため、J R九州の担当レベルの方から膝詰めで、利用促進策や上下分離する場合の想定など事務的に議論を進めていただきたい。さらに、鉄道を使った観光振興策は、J R九州の十八番であるため、利活用策にJ R九州独自のノウハウなどを組込んでいただきたい。これはもっと事務的に密にやっていただきたい。

いくつか懸念事項があるので、それを早急に解消し、合意することを急がなければならないということを改めて痛感した。次の会議で本日の意見を踏まえた実のある成果が出せるようにしっかり関係者間の協議を進めたい。特にJ R九州からは先ほど申し上げた、施設のメンテナンスや省力化、あるいは営業の観点等の専門的な目線で県の提案に対する具体的・建設的提案や助言など知恵出しをしていただきたい。